

「文化財の多言語解説等による国際発信力強化の方策に関する有識者会議」において議論された、更なる文化財の国際発信力強化に必要な事項について、有識者より御提言いただいたもの。

< 1. 文化財の多言語解説の質的改善 >

- ・多言語での文化財解説を制作するにあたっては、「多様な訪日外国人旅行者に楽しんでもらえるよう、どのような内容を紹介するか」を吟味することが必要。この際、表面的な意味合いのみならず、精神性、歴史等まで分かるコンテンツをいかにして作るかが重要。
- ・専門家の関与が重要。日本語解説を翻訳するのではなく、ネイティブのライターが書き起こした文章に監修を入れて内容をチェックするという方法が有効。
- ・多言語化にあたっては、まず英語解説を一度仕上げてから、他の言語にも展開することが有効。
- ・伝統芸能や伝統文化についても、多言語で鑑賞を楽しむために様々な工夫が必要。今後、モデル形成・ノウハウ蓄積が求められる。

【想定される解説作成のおおまかな流れ】

- 1 解説の“バイリンガル化”
 - ・ネイティブライターへのテキスト作成の依頼と必要な情報提供
 - ・監修者によるチェック
 - ・第三者に見てもらって内容を改善
- 2 他の言語への展開

< 2. 多言語解説整備の加速のために必要な事項 >

- ・多言語対応に関する人材や専門用語の対訳などについて知見を共有すること等により、どの地域・文化財であっても質の高い解説整備が行うことが可能となる環境整備が必要。具体的には以下が有効。

【有効と考えられる取組の例】

- ・相談に気軽に乘ってもらえる外国人アドバイザー
- ・ネイティブで文章作成能力の高いライターとの連携促進
- ・外国人監修者等、専門的な人材のリスト化
- ・専門的な知識を有する者が対訳を登録できるウェブサイトの整備

< 3. 文化財や地域の国際発信強化に必要な事項 >

- ・誰もが情報発信の主体となりうる現代社会においては、来訪者自身が情報発信になりうるため、日本に来訪した方々が魅力を感じられるような丁寧で楽しめる解説の整備が国際発信強化につながる。
- ・インターネットを活用した取組も有効（例：オンライン上での動画配信）。
- ・地元の住民が地元の文化を理解していること。